

## 神の母聖マリア

2010.1.1

民数記 6・22-27

ガラテヤ 4・4-7

ルカ 2・16-21

新年おめでとうございます。新しい年を迎えて私たちは心も新たに、迎えたこの新しい年の上に神様の祝福を求めてこの初詣のミサをおささげいたします。新たな一年のこの初めの日ほど、全ての人が心一つに神様の祝福を願うにふさわしい日はありません。この元旦に初詣の祈りをささげている全ての人と心を合わせ、全ての人々の幸せを願ってこのミサをおささげしたいと思えます。

私たちの今朝の祈りは、第一朗読の民数記の中で主なる神がモーセを通して、アロンとその子らに命じておられる祈りです。アロンとその子らは神によって立てられた民の祭司として全ての人の上に、神の祝福を祈る務めを託されているのです。「主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔を向けてあなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平安を賜うように。」あなたと単数形で呼びかけられているあなたは、神が祝福を与えようとしている一人ひとりの全ての人です。主の祭司であるアロンとその子らのもとに、神の祝福を求めている一人ひとりの全ての人です。そして、旧約の祭司アロンとその子らに委ねられていた、全ての人のために主なる神の祝福を祈るこの務めは、新約の大祭司であるイエス・キリストを通して、わたしたちに委ねられている務めでもあります。私たちは洗礼を受けたことによって、神の祭司の民である教会の一員とされ、父なる神が全ての人の上に与えようとしておられる祝福を取り次ぐ務めを与えられているのです。実に大勢の人々が神の祝福を願うこの一年の最初の日、私たちはこのミサをともにささげて、イエス・キリストを通して私たちに委ねられた、全ての人のためにささげる祭司としての祈りをささげているのです。このような聖書を背景に置いた祈りの広がりの中で、今日のこのミサをともにささげたいと思います。

今日の聖書と典礼のリーフレットの中で、神学院の典礼学の先生である白浜神父様が解説されておられるとおり、教会は毎年、一年のこの最初のミサを「神の母である聖マリア」の祭日として祝います。クリスマスの夜私たちの世界にお生まれくださった、神の子、私たちの救い主イエス・キリストを聖母がそうされたように、しっかりと私たちの胸の中に抱きとること、それ以上に神が私たちに与えておられる祝福を受けるふさわしい姿勢はありません。そこに神が私たちに向けておられる、いつくしみのみ顔が輝いています。イエスの母となられた聖母のお望みは、クリスマスの夜の羊飼いたちのように、私たち皆がその子を探し

当て、聖母のみ手からその子を自分の胸に抱きとめさせていただき、その子の母である聖母が感じている無上の喜びを分かち合うことであるはずです。羊飼いたちはあの夜、自分たちが探し当てたその子から伝わってきたぬくもりを決して忘れることは出来なかったことでしょう。つらい夜の仕事のたびに、皆一つにかたまって、あの夜のことを語り合ったことでしょう。そうすることによって、あの夜自分たちが抱きしめたあの子のぬくもりを、夜な夜なのいてつく寒さの中ではっきりと感じ取り、分かち合うことが出来たことでしょう。あの夜を経験した羊飼いたちの聖書には語られていないその後の夜が、このようなものであったとするなら、それはまさしく私たちの教会の姿そのものであると言えるかもしれません。

しかし、あわてて付け加えなければなりません、このような想像は多分に感傷に走りすぎています。私たちが教会において私たちの信仰によって経験していることは、そのような単なる過去の追憶に基づく慰めではありません。羊飼いたちが経験したあの夜の出来事は、あの夜彼らが探し当てた幼子イエスがそこにいてくださる全てのところにおいて、今日の出来事であるのです。そしてそのイエスがいてくださる全てのところにおいて、あの羊飼いたちが見た様に、そのイエスの母である聖母がともにいてくださるのです。これこそが、私たちがカトリックの信者として受け止めている私たちの教会の姿です。羊飼いたちが見出したように、聖母とともにおられる私たちの世界に来てくださった神の子、私たちの主を見出すことが出来る時、私たちはその都度、新たな人生の初めの日を迎えることが出来るのです。世界中の全ての人々が向かえた新たな年の初めの日が、私たちにとってそのような新たな人生の歩みの初めの日となることを祈りあいしたいと思います。

地球上の全ての被造物の上に降り注ぐこの新たな年の初日の出の最初の光は、私たちの上に向けられている神のみ顔の豊かな祝福の光の写しです。私たちはその神の祝福のもとに新たな将来に向かって歩み続けるこの地球上の全ての被造物の上に、神の祭司の民としてその祝福を祈り求めたいと思います。そのためにも、教皇様が毎年、新年に当たってこの世界の全ての指導者と全ての心ある人に向かって発表される新年のメッセージに耳を傾けたいと思います。少し長くて難しく思われるかもしれませんが、この三が日の多少ともゆとりのある日々に、ゆっくりとお読みになってみてください。私たちがその信者であるカトリックの教会の信仰が、この現代世界に対してどのような迫力あるメッセージを発しているか理解できれば、私たちのうちにもいてくださる神を信じることが、どれほど大きな力を私たちに与えるものであるかが分かってくることでしょう。

今日の、この一年の最初の日、それに続くこの私たちの一年の日々に繋がっ

ている最初の日です。その最初の日に私たちが神のみ前にささげる新たな心の  
思いが、新たな心の決意が、この一年の現実との格闘の中で、打ちのめされ、打ち  
砕かれてしまうことのない様に、神に結ばれたものとして私たちの世界のより  
よき前進に役立つ実を結ぶものとなるよう祈りたいと思います。

カトリック高円寺教会

主任司祭 吉池好高